

校内授業研究 充実のための ポイント

西部地区の子どもたちの よりよい成長のために

教職員の資質・能力の向上と
組織としての学校力の向上が
求められています

「教育は人なり」の言葉通り、学校教育の成否は、教職員の資質・能力に負うところが極めて大きいと言えます。しかしながら、個々の教職員が頑張るだけでは、学校としての教育の質を高めることはできません。学校教育は一年一年の断片によって構成されるのではなく、九年間を通しての連続的な経験として構成されるものです。そのように考えると、個々の教職員の努力や頑張りとあわせて、学校としてのまとまり・つながりが必要であると言えます。

校内授業研究の充実を図ることが、個々の教職員の資質・能力を高めるとともに、教職員の協働性を高め学校力を向上させることにもつながっていくのです。



もくじ

西部地区小・中・特別支援学校の校内授業研究の現状はどうなっていますか 1

今、なぜ校内授業研究の充実が求められているのですか 2

校内授業研究は、どのようにスタートしますか 3


校内授業研究に PDCA サイクルをどう生かしますか 4

校内授業研究において、教職員一人一人にどのようなことが求められますか 5

授業研究会を共に学ぶ場とするためには、どのようにしたらよいですか 6, 7

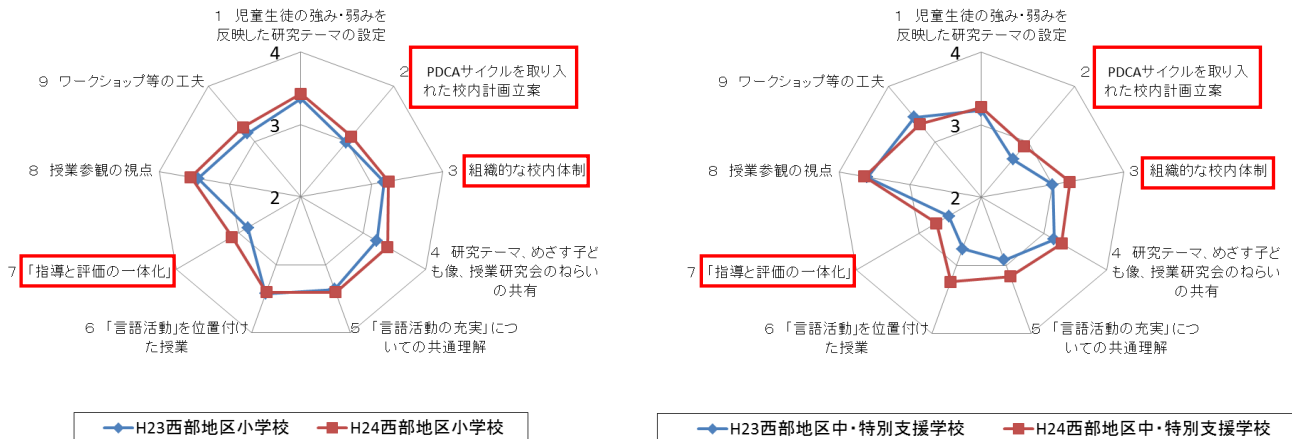
授業研究会の学びを日々の授業に生かすには、どのようにしたらよいですか 8

校内授業研究充実のためのポイント 9

	【水先案内人の紹介】	
	生まれたところ	校内授業県
名前 かい ぜんのすけ 甲斐 善之助	誕生日	3月9日 (サンキュー ありがとうの日)
	年齢	不詳
	得意技	学校現場のお悩み解決
	出沒するところ	だれかをハッピーにしたいという思いがあるところ

西部地区小・中・特別支援学校の校内授業研究の現状はどうなっていますか

校内授業研究会についてのアンケート結果(H23・24 年度末実施)より

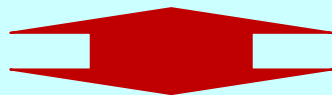


アンケート結果に見る西部地区校内授業研究の課題

- ▲ 設定した評価指標に基づく取組の検証と改善【PDCA サイクルによる改善】→P4・8
- ▲ 研究組織・研究体制の整備【教職員同士の学び合い・深め合い】→P3・5・6・7
- ▲ 子どもを中心に据えた校内授業研究【指導と評価の一体化】→P3・7

校内授業研究に対する困り感

「一生懸命やっているけれど、成果が実感できないし、何を指して校内授業研究をしているのだろう。」
「一部の教職員の話に終始してしまい、校内授業研究会に参加している実感が持てない。」
「校内授業研究というが、自分自身どのようなことに取り組めばよいのかよくわからない。」
「部活動や生徒指導、〇〇教育等、やるべきことが多すぎて、授業研究まで手が回らないのが現状だ。」
「何だか全て研究主任任せになってしまい、研究主任の負担ばかり大きいような気がする。」
「授業の善し悪しについての話ばかりで、何だか責められているような気がして提案授業をする気になれない。」
「人事異動で学校がかわったけど、学校によって随分取組に差があるような気がする。」



教職員の資質・能力の向上と組織としての学校力の向上が求められています

「教育は人なり」の言葉通り、学校教育の成否は、教職員の資質・能力に負うところが極めて大きいと言えます。しかしながら、個々の教職員が頑張るだけでは、学校としての教育の質を高めることはできません。学校教育は一年一年の断片によって構成されるのではなく、九年間を通しての連続的な経験として構成されるものです。そのように考えると、個々の教職員の努力や頑張りとおわせて、学校としてのまとまり・つながりが必要であると言えます。

校内授業研究の充実を図ることが、個々の教職員の資質・能力を高めるとともに、教職員の協働性を高め学校力を向上させることにもつながっていくのです。



校内授業研究は、学校教育目標の実現に向け重要な役割を果たすものですが、十分成果をあげるものとなっているでしょうか。校内授業研究を充実させるためのポイントをまとめましたので、各校の取組の参考にさせていただければと思います。

今、なぜ校内授業研究の充実が求められているのですか

「授業研究がその場限りになりがちで継続しない。」「授業研究が日々の授業に結び付かない。」「教職員一人一人の参加意欲が高まらない。」という声を聞くことが少なくありません。まずは、全教職員が『今、なぜ「校内授業研究」の充実が求められているのか』ということについて理解しておくことが大切です。

校内授業研究は、すべての教職員の授業力向上のために行います！

専門性の向上

- ◆ 研究授業や授業研究会を通して、よりよい授業づくりへのヒントを得ることができます。
- ◆ 他の教職員の授業を見ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができます。
- ◆ 他の教職員に授業を見てもらうことで、新たな気づきを得ることができます。



すべての教師に求められる授業力

- [S] 児童生徒の理解力: 子どもの発達特性を踏まえた子どもの心理の理解、学習状況の理解
- [P] 学習指導の計画力: 学習指導の目標・内容の正しい理解、教材の開発力、授業展開の構想力・計画力
- [D] 学習指導の実践力: 子どもの反応や応答を的確に判断し、授業の場を見通し、ねらいの実現に近づけていく力
- [C] 学習の評価力: 評価の計画力、評価資料の解釈力
- [A] 学習指導の改善力: 評価の結果や授業の振り返りを次の学習指導の改善に結び付けていく力

校内授業研究は、教職員集団が共に学び合う学校風土醸成のために行います！

協働性の向上

- ◆ 教職員間のコミュニケーションが円滑になり、よりよい人間関係を築くことができます。
- ◆ 課題の共有化を図り、その解決に向けて協働して取り組めるようになります。
- ◆ 教職員集団としての意識が高まり、学校の活性化につながります。



自校の子どもたち全体の学習や成長への寄与



甲斐善之助様、授業研究の意義がよくわかりません。校内授業研究によって格段に授業がよくなったという実感もあまりもてないのですが…。

授業研究がうまく機能していないようじゃな。授業の善し悪しに関する一般論を話し合うことが目的になっていたり、参観者の目を気にして形を取り繕うような研究授業をしたりしているのではないかな。

授業研究は、目の前の子どもたちに学力を付けるために行うのだという目的を今一度確認することじゃな。「子どもたちができるようになったのは、教師によるどのような働きかけがあったからか。」「目の前の子どもたちの課題を解決するためには、教師によるどのような取組が必要か。」といった「子どもの具体的な姿」を核に据え、次の指導に生かすという視点を大切に授業研究を行っていく必要があるのじゃないかな。



校内授業研究は、どのようにスタートしますか

自校の現状を自覚することが、切実性のある「主題」を生み出します。「データをもとに自校の児童生徒の課題を明確にする」「日頃実施している授業の現状把握を行う」ことにより、現状の問題点や本気で改善したいという思いを全教職員で共有することが、授業研究に意義を感じ、積極的にかかわろうとする教職員の態度を生み出すのです。

研究課題を見いだすための2つの作業

①子どもの実態に関する率直な意見交換

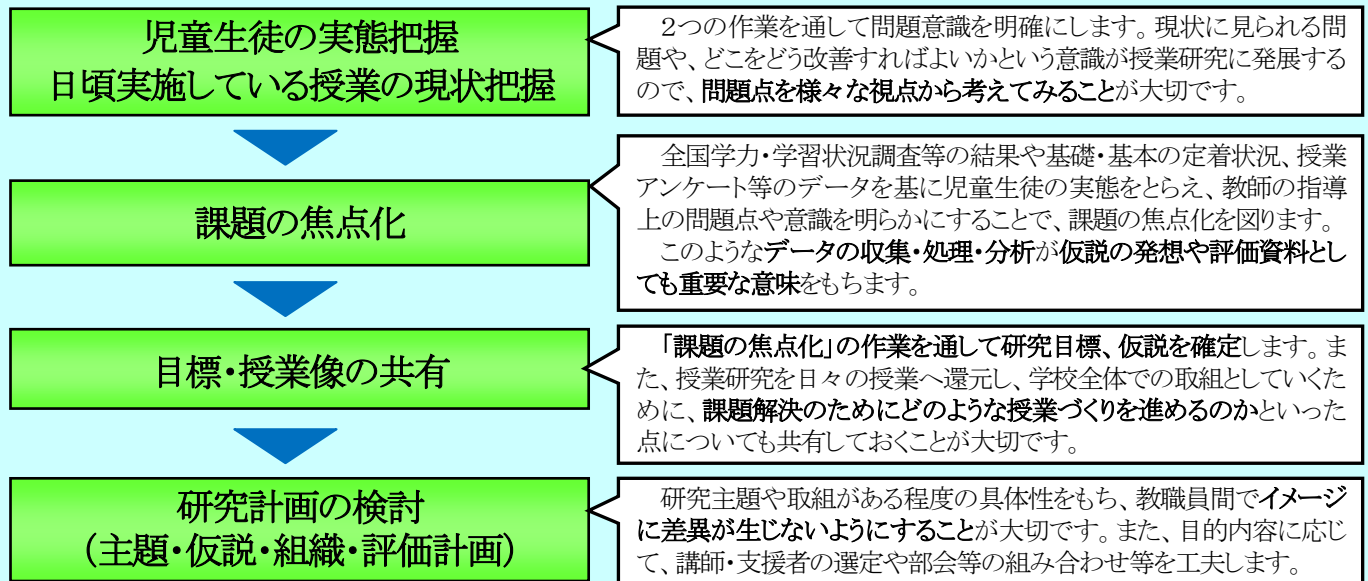
校内授業研究は、子どもの実態から出発するということが大切です。とりわけ学習面についての子どものよさと課題を具体的な姿から分析していくことが大切です。また、なぜそのような課題が生まれるのかといった背景の部分や、到達点をどこに置くのかといった点についても全教職員で話し合うことを通して、子どもたちの抱える課題がどこにあり、どう改善したいのかを明らかにしていくことが切実性のある主題を生み出すことにつながります。

②日頃実施している授業の現状把握

子どもの現状の大半は、日頃実施している授業の現状に依存していると言えます。また、子どもの抱える学習面についての課題の改善は授業を通して行うことになるので、授業がどのような質のものであるかを把握することが大切です。

まずは、各自が丁寧に授業記録を起こしたり、子どもへの授業アンケートを行ったりすることで、問題点を明らかにします。その後全教職員で報告し合う中で共通点を見だし、みんなで力を合わせ、ともに支え合って乗り越えるに値する研究課題づくりへとつなげていきます。

校内授業研究のスタート(例)



毎年校内授業研究に取り組んでいるのですが、今ひとつ学校全体の研究への意欲が乏しいように感じているのですが…。

教職員の意欲や校内研究自体の成否、研究内容の実践への活用と効果の**すべてが研究課題を見いだす段階で決まる**と言っても過言ではないのじゃ。

「授業研究はやらなければならないことだから…」とか「やっていけば何かいいことがあるに違いない。」といった思いでは、**着実な成果は望めない**じゃろうな。全教職員が目的をもって授業研究に向かうためには、やはり**子どもの実態や、授業の現状を自覚**することが必要じゃ。子どもたちは日々の授業を受けて成長を続けているのじゃ。現実から目をそむけるのではなく、しっかりと子どもの実態と向き合い、課題を明らかにすることから始めることが大切なのじゃ。



校内授業研究に PDCA サイクルをどう生かしますか

授業研究を個々の教師の指導力・授業力の向上に結び付けるためには、学校全体として計画的・組織的に取り組むことが必要です。学校づくりのビジョンを基に授業研究の目標・計画を設定する(Plan)、仮説を立てて実施する(Do)、目標に照らした評価を行い、仮説を検証する(Check)、改善を図る(Action)、という1年間のスケジュールを作成し、全教職員がイメージできるようにすることが大切です。



研究授業をすることになったんだけど、無難にまとめのところにしておこうかなあ。それとも準備の時間が少ないから導入のところにしようかな…。

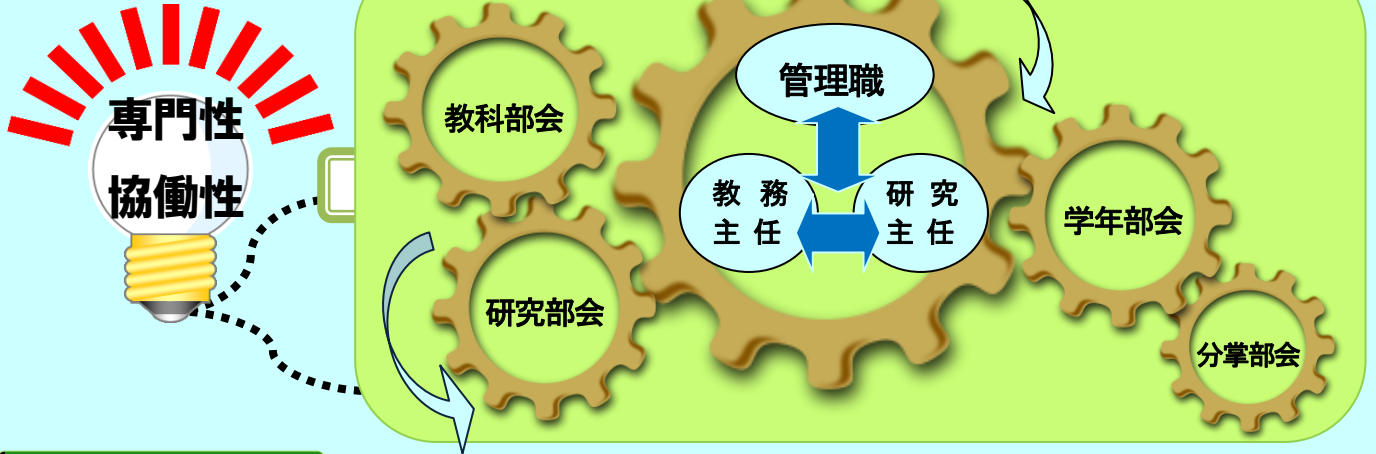
おぬしの学校では、校内授業研究の計画がどのように出されたのかな？研究授業は、学校としての目指す子どもの姿や、目指す授業像を実現するために行うのじゃ。だから、どの単元のどの部分を授業するかは、学年主任や研究主任、教科主任とよく協議して決めることじゃ。研究内容によっては、向き不向きの授業場面もあるからな。



校内授業研究において、教職員一人一人にどのようなことが求められますか

授業研究の主体はあくまでも一人一人の教師であり、自ら学ぶ姿勢が何よりも尊重されなければなりません。授業研究に意義を感じ、積極的にかかわろうとする教師の態度に支えられてこそ、実りある授業研究が実現するのです。一人一人の教師が意欲的に取り組むためにも、管理職のリーダーシップはもとより、教務主任、研究主任、教科主任、学年主任等が、管理職のビジョンや学校経営の方針、年度の重点事項等を理解し、具現化していくことが求められます。

人材育成



管理職

ビジョンの提示

- 教職員に対する「目指す子ども像」の具体的な提示
- 教職員それぞれの果たすべき役割と、相互の関係を明らかにした機能的な組織づくり

適切な指導・助言

- 教職員の授業実践に対する具体的な指導助言
- 教職員の自己目標達成状況の把握と助言
- 教務主任、研究主任等への指導助言(進捗管理・取組の修正等)
- 学校教育目標の見直し及び研究主題修正への助言
- 次年度に向けた計画改善の指示
- 研究組織及び研究体制の見直し

評価へのマネジメント

- 学力や学習状況等の調査結果の評価
- 教職員の自己目標に対する評価
- 学校教育目標及び「目指す子ども像」の達成状況の把握と分析

教務主任

研究内容の確認と時間の確保

- 授業研究会の計画的な実施
- 現状を踏まえた教職員への助言
- 事前研究会・全体研究会・部会等の時間の設定

評価と検証

- 学力調査やアンケート等による達成状況の評価
- 評価結果の全体へのフィードバック
- 研究主題や仮説の検証

見直しと課題克服への助言

- 停滞している各部への適切な指導・助言
- 校内授業研究計画の見直し
- 研究主題や仮説の検討

研究主任

研究計画の立案・実施・まとめ

- 研究テーマ設定に向けての資料の提示
- 学校の年間計画と対応した校内研究計画・研究組織の原案の作成
- 記録の保管や整理

研究推進における連絡調整

- 管理職や教務主任、企画委員会との連絡調整
- 各主任との連絡調整
- 外部講師との連絡調整

研究主任との連携

- 学力調査やアンケート等による児童生徒の実態把握
- 研究主題に即した具体的な達成目標の設定
- 校内授業研究計画の立案
- 積極的な情報収集



私の学校の授業研究会は、一部の参加者が断定的に意見を言ったり、意見を言ってもすぐに否定されたりする雰囲気があって、あまり活発な話し合いになっていないわ…。

活発な話し合いを支える雰囲気づくりのためには、ファシリテーターの役割を果たす教職員の存在が必要なのじゃ。ファシリテーター教師とは、校内研究の学びの中で、常に中立的な立場で研究会の流れを見通し、ともに学び合う雰囲気を大切に、その成果が最大になるための支援・援助に徹することのできる教師のことじゃ。

「力のある学校」とは、教務主任や研究主任、教科主任、学年主任といった校務分掌上のミドルリーダーが、校内における「日常のファシリテーター」としても機能している学校なのじゃ。各主任が、自らが果たすべき役割をしっかりと自覚しておくことが大切じゃな。



授業研究会を共に学ぶ場とするためには、どのようにしたらよいですか

事前検討会

提案授業後の研究協議を活性化させ、授業研究を授業改善につなげるために、事前の学習指導案検討会が必要です。検討会では、授業研究の視点にそって学習指導案や準備物・教材等を分析し、検討する課題を明らかにしておくことが重要です。このことにより、事後の授業研究会の「協議の柱」が明確になるとともに、効果的に研究主題に迫ることができます。

事前検討会の進め方(例)

①単元のねらいと教材観についての説明と質疑応答 [15分]

- ・要点を絞って説明
- ・重要課題については、グループで相談する時間を設定

②単元計画の説明と質疑応答[10分]

- ・単元の流れ、学習活動の内容、評価の方法等について説明
- ・反対意見が出たら、グループで相談する時間を設定

③本時の学習指導過程の説明と質疑応答[30分]

- ・児童生徒の変容が分かるように説明
- ・反対意見等がある場合には、代案を提示

④本時のポイント場面と授業観察の視点の確認 [5分]

- ・研究授業においてポイントとなる点を提示し、どのような視点で授業参観をするか確認

学習指導案を見る視点(例)

- 単元(題材)の目標や身に付けたい力を明らかにしているか
- 本単元の学習にかかわる既習事項の定着状況や課題を明らかにしているか
- 児童生徒の実態を踏まえた上で、指導の工夫を具体的に示しているか
- 単元(題材)の目標は学習指導要領の指導事項と対応しているか
- 単元(題材)の目標に応じた評価規準を設定しているか
- 指導と評価の計画が作成されているか
- 単元(題材)の評価規準と指導と評価の計画の評価規準が整合しているか
- 1時間の授業で重点的に扱う評価の観点が明確になっているか
- 本時の目標が明確になっているか
- 本時の目標を実現した児童生徒の姿が具体的に想定されているか
- 本時の目標を達成できる学習展開となっているか
- 本時の目標に応じた評価規準が設定されているか
- 児童生徒の学習状況に応じた具体的な手立てが考えられているか
- 評価方法、評価場面は適当であるか 等

授業参観

共通の視点で授業を参観することができるよう、授業を参観する視点と協議の柱を事前に周知します。その際、年間の校内授業研究のマネジメントサイクル及び前回の授業研究会の内容を基に、徐々にステップアップしていくように計画します。

校内授業研究会参加者に求められること

- 事前の指導案検討会において、授業者の提案の意図を理解し、共通の視点をもって参加すること
- 学習指導案に示されている試みや工夫に着目して参観する準備をすること
- 授業参観においては、研究のねらいや授業のねらいが達成されているかを児童生徒の姿から客観的に見取ること
- 授業研究会においては、協議の視点に基づき、観察記録をもとに積極的に意見を述べること
- 研修後は、授業研究会で出された改善策を、日々の授業や次の授業研究会の計画に取り入れ生かしていくこと

実践の具体から理論を導き出すためのワークシート(例)

この授業のどんなところをいい(問題)と思ったか?	
なぜ、そう思ったのか?	
授業を成功(失敗)に導いたポイントは何か?	
この授業から学ぶべき教訓をあえて一言で言うとしたら?	

うまくいっている実践の事実の背後にあるものを、そこでの実感を大切にしながら、自分たちの言葉として紡ぎ出していくことを大切にします。そのような作業を通してこそ、校内授業研究は一層実り多いものとなり、日々の授業も着実によくなっていくのです。丹念な実践の事実との向かい合いから紡ぎ出された言葉こそが実は確かな理論なのであり、このような営みこそ現場における研究の本体であると言えるのです。



善之助様、いい指導案をお持ちでないですか?とりあえず、ネットで探してみようとは思っていますが…。

苦戦しておるのう。くどいようじゃが、研究授業は授業者だけがするものではないのじゃ。事前検討会はしとらんのかな?指導案についても、大まかな型は学校で作っていくものじゃ。たたき台としての案はあらかじめ担任が考えておかねばならないが、困ったときには研究主任や教科主任、学年主任に相談するのじゃ。

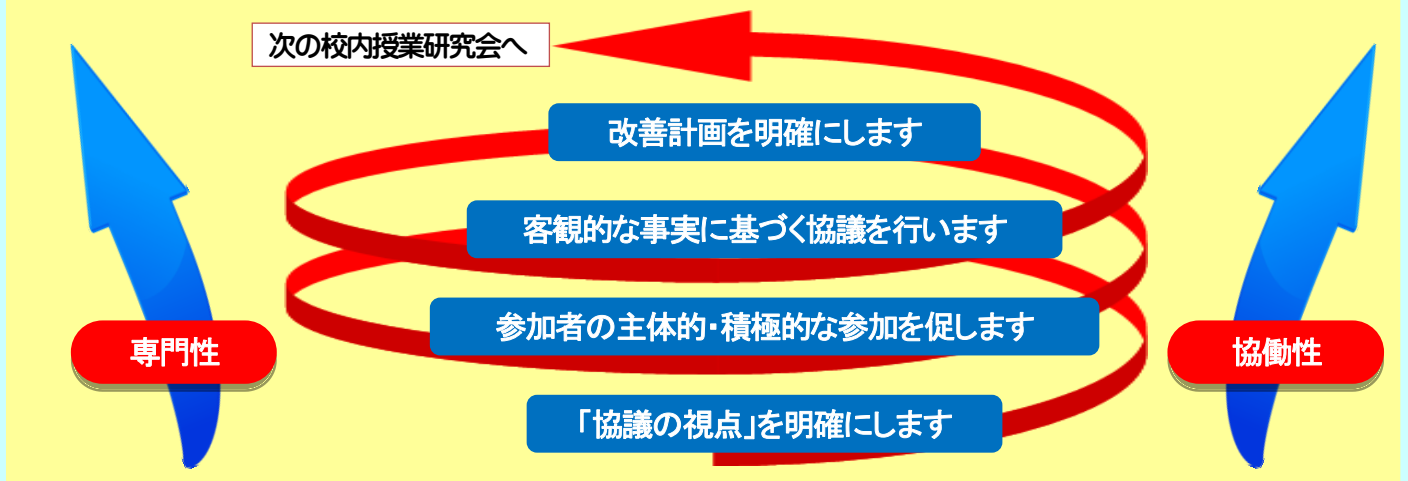
学校全体での学び合いを通して、一人一人が授業力を高めるのだということを絶対に忘れるではないぞ。



授業研究会

校内授業研究には、授業力の向上、学び合う学校風土の醸成の他、情報交換、授業に対するモチベーションのアップ、教材研究等、様々な効果が期待されますが、授業研究会の持ち方次第でその効果は大きく変わります。計画的に効率よく実施するとともに、教職員が主体的に参加でき、活発に意見が交わされるよう授業研究会の持ち方を工夫することが大切です。

授業研究会充実のためのポイント



授業研究ワークショップ

基本的な流れ(例)と進め方のポイント

①目的と方法の説明を行う[5分・全体]

プロセスイメージとゴールイメージ(研修の仕方や成果物)を参加者全員がもてるようにします。

②意見やアイデアを付箋に記入する[10分・個人]

抽象的な表現は避け、具体的な文章で記述します。整理や発表を円滑に行うため、黒の水性サインペンで付箋1枚に1項目を記入します。

③模造紙の上で整理・構造化を図る[40分・グループ]

付箋の内容を紹介し、類似・関連したものを出し合います。小見出しを付けたり、因果関係や対立関係など関連するものを結び付けたりして構造化を図ります。

④成果を発表し、適宜質疑を行う[15分・全体]

各グループの成果について共通理解を図る時間を短時間でも確保します。必要に応じて質疑や解説を行います。

⑤研修成果を確認する[10分・全体]

研修で学んだことを各自が研修メモや研修ノートに必ず書き記します。研修から見た自己課題も明確にします。

⑥研修の学びを記録する[10分・個人]

Point!

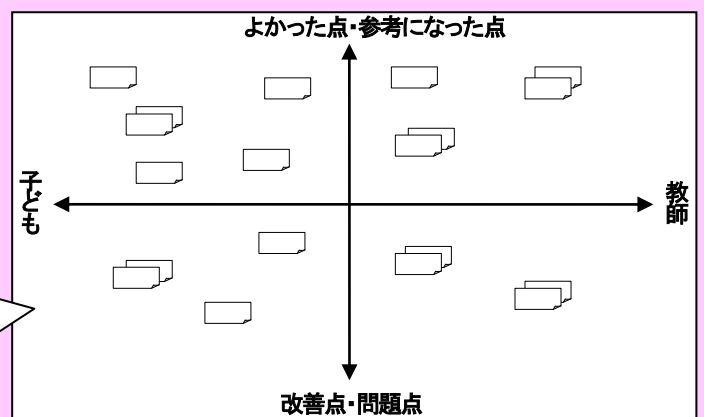


ワークシートを選ぶ

授業研究ワークショップのような改善型の研修で用いられる手法としては、「概念化シート法」(縦軸を「成果」「課題」、横軸を「子ども」「教師」としたもの)や「マトリクス法」(授業分析の視点を明示するもの)、「指導案拡大シート法」(指導案を模造紙サイズに拡大したもの)等があります。協議の目的に応じて、どのシートを使用するか選びます。

概念化シート

4象限上に個々の気づきを構造化していくことで成果や課題を明確にすることができます。また、課題について話し合うことで、取組に対する共通理解も図れます。



善之助様、学校現場は多忙で、なかなか校内授業研究会を行うための時間が確保できないのですが…。



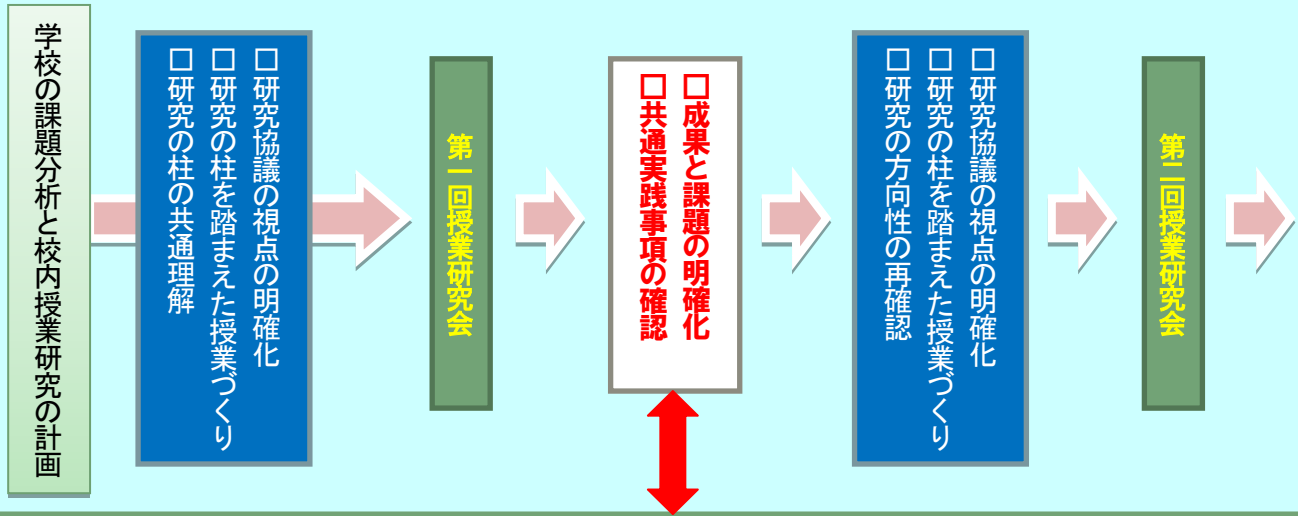
まずは、**時間確保のために校務や行事の見直しを行う**ことが必要じゃな。授業研究ワークショップも、「研修の目的や方法を事前に連絡する。」「参加者は意見やアイデアを練っておく。」「当日の資料は事前に配布する。」「関連する資料があれば各自で持ち寄る。」といった**事前準備**をしっかりと行うことで、**効率的な運営**を行うようにすることが大切じゃ。



授業研究会の学びを日々の授業に生かすには、どのようにしたらよいですか

研究授業に向け、授業者は学習指導案や教材教具の準備等に奔走します。研究授業をすることは大変な労力を使いますが、その分充実感もあるはずですが。授業研究会での学びを基に、既存の知識・技術や取組に改善を加え、新たな実践へと再構築していくことが大切です。

授業改善につながる授業研究の流れ



□ 成果と課題を明確にし、共通実践を確認します。

授業研究会が終わったら、授業研究会の成果と課題を整理します。そして、整理された成果と課題をもとに、共通実践について共通理解を図ります。共通実践については、全ての授業者が実践できるよう、研究の柱と照らし合わせて内容を吟味します。共通実践を通して見えてきた新たな課題を、日々の授業や次の授業研究会に生かすことができます。

共通理解のためのポイント

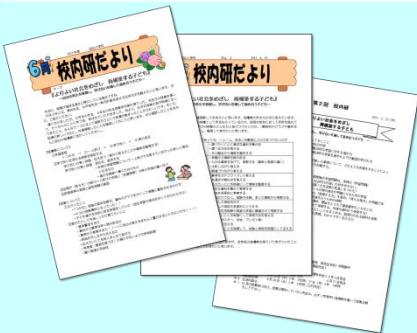
・校内研だよりを活用しましょう

授業研究会で協議されたことを、再度「校内研だより」のような形で配布します。授業研究会には全職員が参加していますが、受け止め方はそれぞれ違います。方向性をそろえるためにも意味がある取組です。

「校内研だより」はいつもに研究主任が書くのではなく、輪番で書くこともできます。自分でまとめることでより理解が深まるのです。

・ワークショップの成果物を活用しましょう

ワークショップでは、思考の過程や気づき等がまとめられることが多くあります。しかし、まとめられたものが、スペースの関係等で活用しにくいようです。せっかくの成果物ですから、場合によっては掲示用にA3程度の紙を使い、職員室に掲示しておきます。そこに新たな発見や手応えなどを書き足していくことにより、日常的な活用につながります。



授業研究ワークショップは盛り上がるけど、その場限りで、あまり日々の授業改善には結び付いていないように感じるのですが…。

ワークショップの成果をそのままにしておいてはいかんぞ。校内授業研究であっても必ず発表による共有化を図り、成果を整理しておくのじゃ。授業者が「改善案」を作成したり、参加者が「自分の授業へ生かしたいこと」をまとめておくと、研修による学びを「言語化」しておくことで日々の授業改善に結び付いていくのではないかのう。



校内授業研究充実のためのポイント

目標・計画設定

<input type="checkbox"/>	「専門性と協働性を向上させ、児童生徒に質の高い教育を実施し、よりよい成長のために」といった校内授業研究の目的について全職員が理解している。	【目的の理解】
<input type="checkbox"/>	校内授業研究が学校改善にどのようにつながるのかということについて、学校教育目標に結び付けて理解している。	【意義の理解】
<input type="checkbox"/>	学校の課題を分析し、焦点化するための場を設定し、課題に向き合おうという共通認識を醸成している。	【協働体制の確立】
<input type="checkbox"/>	児童生徒や学校の実態、教師の問題意識や願い、昨年度までの研究の成果と課題等を基にした研究主題を設定している。	【必要性のある主題】
<input type="checkbox"/>	学校の実態や教師の特性を考慮した研究組織を編成している。	【効果的・効率的な組織】
<input type="checkbox"/>	研究主題と設定理由、ねらい、内容、学校の実態と課題、最終的な到達点等が盛り込まれた、研究全体が俯瞰できる全体計画が作成されている。	【組織的な協働】
<input type="checkbox"/>	研究主任、教務主任、学年主任等が連携を図り、適切な研究推進計画を立てている。	【継続的な研究】
<input type="checkbox"/>	検証に必要な資料が明確になっており、全職員に理解されている。	【検証計画】

実施

<input type="checkbox"/>	「研究授業及び授業研究会は、自己を高める場である」という共通認識の基、授業研究を校内研究の中心に位置付けている。	【積極的な授業公開】
<input type="checkbox"/>	研究授業に向けた事前検討会が計画的になされている。	【計画的な運営】
<input type="checkbox"/>	「言語活動の位置付けを明確にする」「つまずきと反応の予測、それに対する個に応じた支援を記載する」といった言語活動と学習評価を意識した授業づくりになるよう、指導案の様式を工夫している。	【言語活動・学習評価】
<input type="checkbox"/>	ファシリテーターにより、参加者が忌憚なく考えを出し合い、協力してそれらをまとめるといった協働のための雰囲気がつくられている。	【ファシリテーターによる協働促進】
<input type="checkbox"/>	グループ協議や授業研究ワークショップなど、教師の意思形成を図るために効果的なコミュニケーションを活用する方法を取り入れている。	【教師の意思形成】
<input type="checkbox"/>	外部講師の活用にあたり、事前に特に指導を受けたい事柄や質問事項等について連絡する等、効果的な活用に努めている。	【外部講師の活用】
<input type="checkbox"/>	授業研究会の内容について、ワークショップにおける成果物や研究だより等にまとめ、職員室に掲示したり、校外に発信したりするなど、内容の「可視化」が図られている。	【教職員の共通理解】

評価・改善

<input type="checkbox"/>	研究授業後や学期末に評価を行い、改善点を次の研究授業に生かすようにしている。	【PDCAサイクル】
<input type="checkbox"/>	児童生徒の変容と、それを促した教師の行動の視点から校内授業研究の点検・評価を行っている。	【点検評価の視点】
<input type="checkbox"/>	研究成果を日常の教育活動のなかでどう活用するのかが明確になっており、全教職員にそのことが理解されている。	【日々の教育活動への還元】
<input type="checkbox"/>	仮説に沿って、資料の分析・考察がなされ、成果と課題を明確にしている。	【成果と課題の明確化】



自分の専門性や持ち味を生かしながら他の先生方と力を合わせて、子どもたちが確実に力を付けていけるような学校にしていきます。

前向きじゃのう。1人の方が動きやすいと思いがちじゃが、何か困ったときには必ずまわりの同僚が助けてくれるはずじゃ。同じことをするにも、いろいろな切り口で意見をもらおうと、また違った世界が見えるものじゃ。

今の自分に満足せず、まわりの意見に謙虚に耳を傾け、日々精進することじゃ。子どもたちを頼んだぞ。





西部教育局は、市町村教育委員会と連携し、各学校の校内授業研究を支援します

西部教育局学校教育担当は、市町村教育委員会と連携し、各学校のニーズに応じて校内授業研究を支援していきます。「課題発見はどのようにしたらよいのだろうか?」「求められる授業像について共通理解を図るにはどのようにしたらよいのだろうか?」「校内授業研究の運営はどのようにしたらよいのだろうか?」といった校内授業研究に関する疑問や悩みがありましたら、お気軽に声をおかけ下さい。

【連絡先】

西部教育局学校教育担当
TEL (0859)31-9773~9776
FAX (0859)35-2096
E-mail: seibukyoiku@pref.tottori.jp

授業研究を積み重ねることで、学ぶことが楽しいと実感できる教職員が育ち、ともに成長する教職員集団になることが、西部地区の子どもたちのよりよい成長を支えることになるのじゃ。



H26. 3月発行